

まわり道をして、近道はしない。



photo/O.Nagahama

ギター作りに近道はない。その事実を知っているモーリスは、理想のアコースティック・サウンドとの出逢いのためだけに、30年以上もの時間を積み重ねています。

それは、挑戦の歴史であり、技の深化、音の進化の歴史…最高ギターを、ギターを愛する人ととどけるために、私たちはこれからも「まわり道をして、近道はしない。」それが、夢へ続く何よりの早道であるから。

時間と手間を惜しまない。地味な作業を厭わない。誕生以来、変わることのないこのクラフトマン・シップが最高を求めるモーリス・サウンドを創造しています。



そのサウンドとプレイヤビリティで、多くのギターファンに愛されているモーリス・ギター。その秘密は、1967年の創立以来一貫して、最高のアコースティック・サウンドを追求。材料の選別・加工から製造・完成までのすべてに込められています。

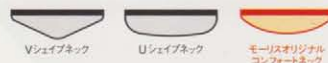
例えば、木材。モーリス・ギターとなる木材は、専用材として選抜されたものだけが世界から輸入されます。そして長い時間を費やしての「天然乾燥」、次いで残った水分とヤニを抜くための「強制乾燥」が施されます。ここまででもソリに強く、音ヌケの良い木材に仕上がりますが、さらにモーリスでは「もどし」と呼ぶ水分調整を行います。強制乾燥で乾燥しすぎた木材の含水率を6-7%に保つための重要な工程であり、「天然乾燥」「強制乾燥」そして「もどし」という丁寧なプロセスを通して木材は、最良のコンディションの材料となり、モーリス・ギター



伝統的な接着剤「ニカワ」

を構成する各パーツへと生まれ変わります。こうしてきた材料を接着する接着剤にも、モーリスならではのこだわりが貫かれています。モーリスでは一般的なボンドではなく、伝統的な接着剤「ニカワ」を使用し続けています。理由は接着力もさることながら、その高い密着性にあります。ニカワは乾燥後に被膜にならず、接着面が直接ふれ合い、難い木と木を密着させます。この密着が、豊かな「鳴り」を生むボディの一体化を実現させます。

さらに、より高次元の一体化のために、ネックの取付もネジとナットによるボルト・オン式ではなく、「セット・ネック方式」を採用しています。この方式は多くの手間と最高の精度が必要とされるもので、高い技術がなければネックの設定が不安定になり、弦高や



Vシェイプネック

Uシェイプネック

モーリスオリジナルコンパウンドネック

ビッチに悪影響を及ぼしてしまいます。

このような優れた技術力が、モーリスの「弾きやすさ」と優れたサウンドの

開発を可能にしています。その一例が「モーリス・オリジナル・コンフォートネック」です。ネック全体のスリム化の成功によりどのポジションでも弾きやすく、特にハイポジションでの抜群の演奏性を実現。VシェイプとUシェイプの中間的なネック形状は、クセがなく、長時間の演奏でも手が疲れるようなことはありません。また、ボディの補強材であり、サウンドに最も影響を与えるアコースティック・ギターの生命ともいえるプレイングにも、獨創性が発揮されています。長年の研究の結果完成した



セットネック方式



オリジナルXプレイング



「モーリス・オリジナルXプレイング」の特長は、鳴りと強さのベスト・バランス。美しい音色・豊かな音量・強い鳴りのモーリス・サウンドの源になっています。

この他にも、1本のモーリス・ギターには様々な技術や工夫が随所に投入されています。おすかな歪みや曇りも許さない確かな塗装技術。湿度の変化の影響を受けやすいアコースティック・ギターを、常にベスト・コンディションに保つための防湿塗装。さ

らに、数度にわたり丹念に行われるクーリングや、スムーズな演奏をサポートするためのフレットの研磨、正確な打ち込み、エッジ加工。そして、細部にまでわたる厳しい品質チェックなど

…目に触れない部分にまでもそそがれる。最高のギター作りへのこだわりと、長く複雑な工程を経てはじめて、モーリス・ギターはあなたのもとへ届けられます。

